

<p>I.属性</p> <ul style="list-style-type: none"> • N=2,085 (調査継続中のため回答率は不明) • 内、医師評価ありN=1,426 • 平均年齢: 12.2歳 (SD:0.1) • 男子: 66.5% <p>II.受診までの経緯</p> <ul style="list-style-type: none"> • 症状に気付いたとき、どの機関に相談すればいいかお困りになりましたか? <ul style="list-style-type: none"> - 非常に困った、やや困ったが 62% • 症状に気付いてから子どもの心の専門病院を受診するまで、どのくらいの期間がかかりましたか? <ul style="list-style-type: none"> - 6ヶ月以内が35% - 平均2.2年 (SD:2.6年) • 専門病院を受診する前に他の機関で相談されましたか? <ul style="list-style-type: none"> - ハイが84% - うち、初めて相談に行った機関は <ul style="list-style-type: none"> • 保健センター(保健所) 23% • 病院小児科 15% • 小児科クリニック 13% 	<ul style="list-style-type: none"> • 専門病院をどのようにして知りましたか? (複数回答可) <ul style="list-style-type: none"> - もともと知っていた 33% - 以前に受診した医療機関の紹介 26% - 保健所・保健センター・福祉事務所 14% - 学校の先生(保健室の先生)から 11% - 専門病院を受診している人から 9% - インターネットで調べた 7% - 児童相談所 7% - 親戚や知人に調べてもらった 6% <p>III.診療状況</p> <ul style="list-style-type: none"> • 初診: 3.6%、再診: 96.4% • 再診のうち、診療の満足度 <ul style="list-style-type: none"> - 非常に満足している、ある程度満足している、が76% <p>IV.生活上の困難度(数字が大きいほど困難)</p> <ul style="list-style-type: none"> • 患者による評価 (N=2,085) <ul style="list-style-type: none"> - 初診時: 平均3.6 (SD:1.4) - 現在: 平均2.6 (SD:1.1) • 医師による評価 (N=1,426) <ul style="list-style-type: none"> - 初診時: 平均4.2 (SD:0.9) - 現在: 平均3.3 (SD:1.0) • 患者とその患者を診た医師の生活上困難度評価の比較 (N=781) <ul style="list-style-type: none"> - 初診時: 患者3.7、医師4.2 (p<0.001) - 現在: 患者2.7、医師3.3 (p<0.001)
---	--

◆ 連携に関する研究

- ① 虐待に関する連携
⇒ 連携の実態調査、モデル作成と実行
- ② 虐待連携における医療の役割
⇒ 乳幼児揺さぶられ症候群 (SBS) の発生数調査において、**児童相談所に通告されている数は年間146人、うち11人死亡と推定された。**
- ③ 教育と医療の連携の実態調査
- ④ 医療と福祉・司法・警察との連携
⇒ 共通の認識を高めるためのツールの必要性
- ⑤ 災害時のメンタルヘルスにおける連携
⇒ 災害後長期の影響が明らかになり、**長期的な展望が必要**

12

◆ 専門的医師の育成の在り方に関する研究

- ①研修に関し、実際に専門医を目指す若手医師を対象とした3日間研修を行い、その効果を検討した
⇒指導体制が比較的整っている機関で働いている医師が半数以上であったが、講義を受けている医師が少なく、第一線の医師の講義は意味があることが明らかになった
- ②専門性の維持・向上に関して、今年度は米国の専門医制度を詳しく検討
- ③コメディカルスタッフの専門的育成として、CLS、心理士、保育士に関して検討

13

◆ 子どもの心の診療標準化に関する研究

- ①被虐待ケースの実態および行動化への対応の実践研究
- ②子どものトラウマ診療に関する、専門的医師への質問紙調査
⇒エビデンスがあるといわれている治療を実践している医師は少なかった。
- ③心身医学的診療に関しては、ガイドラインの効果に関して測定
- ④子どもの自殺企図に関して、救急外来での自殺未遂者38名（13～18歳）への面接結果を分析し、感情障害が32%、精神科既往歴が63%であった。
- ⑤乳幼児精神医学に関して、診断の妥当性に関して検討
- ⑥行為障害に関して、エビデンスのある診療を検討、実際に発達障害を伴う行為障害にSSTを実施して効果を検討

14

◆ 支援情報システムの在り方に関する研究

ホームページの立ち上げ

3種類のページ

- ・ 一般向けページ
- ・ 本事業の拠点病院ページ
- ・ 研究者同士の意見交換ができる研究者ページ
Webアンケートができる

(立ち上げは研究班で行い、維持は事業として行う)

15

ホームページ開設状況報告

① 国立成育医療センターのホームページよりアクセス
<http://www.ncchd.go.jp/>



16

②一般向けページと各拠点病院関係者ページ



17

◆一般向けページ

- ①お知らせ
各拠点病院が実施するセミナーや講演会、シンポジウム、公開会議などの情報を掲載
- ②拠点病院事業とは？
拠点病院について普及させる目的として掲載
- ③全国拠点病院の窓口
近隣の拠点病院について知って頂くために掲載
- ④困ったときは・・・
内容について検討中

18